

学外研修報告

フィールド科学系部門 生物化学班 宇都武司

1. はじめに（目的等）

第30回 生物学技術研究会に参加し、生物学系技術職員による研究成果発表を聴講し意見交換することで、知見を広げ技術向上と技術員同士の交流を図る。

2. 期間・場所

期間：平成31年2月14日～2月15日

場所：愛知県 岡崎市 岡崎コンファレンスセンター

3. 参加者等

生物学系技術職員 140名他

4. 研修内容

研修講演、ポスター発表、奨励研究採択課題技術シンポジウム、口演発表、話題提供により、大学・高等専門学校・研究所、および附属研究施設などに所属する、生命科学に携わる技術職員との技術交流、情報交換が行われた。

5. まとめと感想

ポスター発表は[記録的猛暑の 2018 年夏、衛生管理者はどう動いたか～実験動物施設での熱中症対策の取り組み～]岡山大学・[遺伝研の一般公開において見頃となる桜]国立遺伝学研究所・[野外観察園における業務支援室との園内作業の試み]名古屋大学・[レーザー加工機(JV440)での加工例]生理学研究所が興味深かった。口演発表は[富山大学薬学部附属薬用植物園における展示植物ラベルの工夫]・[炭焼きの[見える化]で初心者でもできる技術開発と教材化]などがあり新たな知見を得た。又、[UPLA におけるキサントフィル成分の測定]の色素の測定の話聞きながら、飼育下繁殖のアカハライモリのお腹を赤くする方法に思いが跳び、話に出てきたルテイン・アスタキサンチンなどの使用を想像した。